

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
臨床心理学	講義	2	番匠 明美
<p>【授業のテーマ及び到達目標】 テーマ:保育や教育の現場における臨床心理学の活用</p> <p>到達目標:①主に乳幼児期の子どもの心の問題を理解することができる。②発達障害等の子どもを支援するために必要な知識を身に付けている。③保育カウンセリングの視点を理解している。④③をふまえ保育、教育現場での個々の子どもに応じた関わりや援助について工夫することができる。⑤園と家庭と地域の連携をもとに、子どもと保護者の支援について考えることができる。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>子どもの抱える問題を親子関係の視点からもとらえることができるようにする。カウンセリングの手法を保育、教育現場で生かし、個々の子どもの成長発達を支える力を身につける。発達障害に関する理解を深め、障害をかかえる子どもが過ごしやすい保育の実践をめざす。保育の現場から地域との連携により子育てを支えるあり方を考え、子どもと保護者の支援への理解を深める。</p>			
<p>【全体の授業計画・内容】</p>			
1. オリエンテーション 臨床心理学とは			
2. 保育や教育の現場における臨床心理学の活用 ①子どもを見つめる目			
3. 保育や教育の現場における臨床心理学の活用 ②かかわるといこと			
4. 保育や教育の現場における臨床心理学の活用 ③共にいるといこと			
5. 心理臨床的面接の技術 ①信頼関係を築く			
6. 心理臨床的面接の技術 ②面接の技法			
7. 心をとらえるために ①遊戯療法			
8. 心をとらえるために ②心理テスト			
9. 心をとらえるために ③心理実習			
10. 応答的な保育 ①理論			
11. 応答的な保育 ②実践			
12. 心に痛みを抱える子どもを支える ①発達障害の視点から			
13. 心に痛みを抱える子どもを支える ②親が抱える問題			
14. 心に痛みを抱える子どもを支える ③家族を支えるとは			
15. まとめ			
<p>【準備学習の内容】</p> <p>予習のあり方:日常的に保育や教育をテーマとした問題に子どものかかわりを視点とし関心を持っておく。</p> <p>学習のあり方:臨床心理学の方法を自分なりの活かし方を考えながら学ぶようにする。</p> <p>復習のあり方:学んだことを積極的に実生活の中で活かし、自身でフィードバックしてみる。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>提出物(70%) 受講態度(30%)</p>			
<p>【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】</p> <p>小レポートに記述された質問に授業内でコメントし受講者の理解を深める。</p>			
<p>【テキスト】</p> <p>特に指定せず、必要に応じて資料等を配布する。</p>			
<p>【参考文献】</p> <p>馬場禮子他『保育に生かす心理臨床』ミネルヴァ書房・下山晴彦他『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房</p>			